

古文単語 315 をパーフェクトに

presented by kobato

kobato 

はじめに

危険を恐れずにいえば、古文の勉強に関しては、古文単語 315 と古文文法さえマスターすれば、あとは過去問をせいぜい 30 問ぐらい繰り返せばそれでなんとかなるのではないか、と思っている。もちろん、そんな甘い世界ではないのは重々承知しているが、たとえば、センター試験 3 か月前にもかかわらず、全然なにもしていない受験生、それも国公立の理系を志望しているのであれば、こういうアドバイスが適切だと思うのである。1 か月で古文単語を 315 個覚える。一日 15 古文単語 315 を覚えれば、21 日で覚えられるだろう。4 日ぐらいサボる日もあれば模試もあるので、25 日としよう。残る 1 か月で古文文法を覚えて、あとの 1 か月を 1 日 1 問、古文の過去問なり総合問題を解き、最後の 5 日でまとめ上げれば、センター試験の古文程度なら、なんとかなるだろう。

古文単語 315 に関しては 315 個を覚えれば基本的には問題ない。必要と思われる古文単語 315 個をまとめた。そして、無駄な解説は省いて、できるだけシンプルにまとめ、辞書に限りない近い形でまとめている。雑多な解説を読んで勉強した気になるよりも、15 単語という小さなユニットを一気に暗記してもらいたい。そういう意味では「古文単語 315 をパーフェクトに！」の設計思想として丸暗記とっていただいてもかまわない。ちょっと使っていたら、本書のシンプルさの快適さがわかるはずだ。

使い方は諸君の自由であるが、初めて学ぶひとの入門書として丸暗記に挑戦してもらってもいいし、ある程度、勉強したことのたまかな復習・確認というニュアンスでも構わない。ただひとつ諸君にお願いしたいのは、**本書は大学受験総合サイト「kobato」の「古文単語 315 をパーフェクトに」(WEB コンテンツ)のサブテキストという位置づけ**である。「古文単語 315 をパーフェクトに」(WEB コンテンツ)をメインに添えて、勉強していただくのが最適だと思うのだ。自分ならまず 3 往復ぐらい目で見て、口で発音して、ちょこちょこ不安な単語を紙に書く。それからすぐに kobato のサイトに行って、WEB コンテンツを解く。3 往復ぐらいすればだいたい大まかにできると思うのだけれど、わからないところはノートなり単語帳なりにメモして次の日にクイズを解く。これでたいいは覚えることができる。以上は、ひとつの目安として、参考にしてもらえればいいが、少なくとも勉強の基本は「間違えたところだけを繰り返し解く」ということだけは忘れないでほしい。

大学受験の総合サイト kobato

<http://www.kobato.in/>

The logo for 'kobato' features the word 'kobato' in a lowercase, orange, sans-serif font. A small, stylized orange bird is perched on the top of the letter 'o'.

008 ありく（歩く）カ行四段

- ①歩き回る・出歩く
- ②あちこちで～してまわる
- ③～しつづける

かぎりなく悲しくのみ思ひ**ありく**ほど
この上もなく悲しく思**いつづける**ばかりで

009 おこなふ（行ふ）ハ行四段

- ①仏道修行をする・勤行する

持仏すゑたてまつりて**おこなふ**尼なりけり
持仏をお据え申し上げて**勤行する**尼であった

010 悩む マ行四段

- ①病気になる・病気で苦しむ・患う
- ②苦勞する

御目わづらひたまひて、耐へがたう**なやみ**たまふ
御目をお患いなられて、耐えがたいほど**お苦し**みあそばす

011 おこたる（愈る）ラ行四段

- ①病気が回復する
- ②油断する

おこたりたる由（よし）、消息きくも、いと嬉し
病気がよくなったということを入づてに手紙で知るのも、とてもうれしいものだ

012 おくる（後る・遅る）ラ行下二段

- ①人に先立たれる・死に遅れる
- ②愈る・乏しい

十一のとし、父に**おくれ**しにわはせて
十一歳のときに、父に**先立たれた**のと同時に

013 ながむ A（眺む） B（詠む） マ行下二段

- A①もの思いに沈む・物思いにふける・物思いしながらぼんやり見る
- B①（漢詩や和歌を）口ずさむ・詩歌を作る

ほととぎす鳴きつる方を**ながむ**ればただ有明の月ぞのこれる
ほととぎすが鳴いた方を**見渡す**と、ほととぎすはいなくて、ただ有り明けの月が空に残っていることだ

014 ときめく（時めく）カ行四段

- ①寵愛を受ける・かわいがられる
- ②時流に乗って栄える

すぐれて**ときめ**きたまふありけり
とりわけ帝のご**寵愛を受けて**いらっしやる人がいたのだった

015 かしづく カ行四段

- ①大事に養い育てる
- ②大切に世話をする

帝にたてまつらむとて、**かしづ**きたまひけるを
天皇に差し上げようと（親は）**たいせつに養い育て**いらっしやたが

016 めづ（愛づ）ダ行下二段

- ①愛する・好む・かわいがる・気に入る
- ②ほめる・たたえる・感嘆する・賞美する

人々の、花、蝶やとめづるこそ、はかなくあやしけれ
世間一般の人々が花や蝶を愛し好むようすは、あさはかで奇妙なことである

017 おどろく カ行四段

- ①目を覚ます
- ②はっと気づく
- ③おどろく・びっくりする

「あな、おそろし」とおどろきて
「ああ、恐れ入ったことだ」とびっくりして

018 こうず（困ず）サ行変格

- ①疲れる・苦しい
- ②悩む・困る・つらく感じる

暑く苦しきにこうずるほどに
暑くて苦しいので早く感じているうちに

019 おぼゆ（覚ゆ）ヤ行下二段

- ①思われる・そのような気がする
- ②思い出す・思い出される
- ③似る・似ている

后（きさい）の宮の姫君こそ、いとうおぼえて生ひ出でさせたまへりけれ
お後の姫君こそがじつによく似たお姿にご成長なさいました

020 聞こゆ ヤ行下二段

- ①聞こえる・耳に入る
- ②うわさされる・評判になる・世間に知られる
- ③理解される・わけがわかる

うたれさせたまひめときこえしかば
お討たれになってしまったとうわさされたので

021 まもる・まぼる（守る）ラ行四段

- ①じっと見つめる

花の本には、ねぢ寄り立ち寄り、あからめもせずまもりて、酒飲み、連歌して
花の咲いた木のもとに、にじり寄り近づいて、よそ見もせずじっと見つめて、酒を飲んだり連歌を
したり

022 たのむ（頼む）A マ行四段 B マ行下二段

- A① あてにする・頼りにする・期待する
- B① あてにさせる・頼りにさせる・期待される

君をのみたのむたびなる心にはゆくす糸遠く思ほゆるかな
あなただけを頼りにして、このたび旅立っていく私の心の中では、
旅路の行く先が遠く思いやられ娘の将来が行く末長くつづくようにと祈っております

023 かづく（被く） A 力行四段 B 力行下二段

- A① かぶる ② いただく
B① かぶせる ② 与える

大将も物**かづき**
大将も引出物を**纏り**

024 ののしる 力行四段

- ① 大声を出す・大声で騒ぐ
② 評判になる・噂になる
③ 勢いが盛んである・羽振りをきかす

岸にさし着くほど見れば、(大勢の人が) **ののしりて**
岸に舟を着けるときに見ると、(大勢の人が) **騒いで**

025 やる（遣る） 力行四段

- ① (人)を行かせる・(物)を送る
② ~しきれない・最後まで~ない

文など**やり**けれど、返事もせず
手紙などを**遣った**が、返事もしない

026 いらふ（答ふ） 八行下二段

- ① 答える・返事する

いらへたまはでほど経ければ、なまはしたなきに
ご返事もくださらずに時間がたったので、何やら間の悪い思いをしていると

027 にほふ（匂ふ） 八行四段

- ① 美しく映える・美しく輝く
② 香りがする

紫の**にほへる**妹を憎くあらば
紫草のように**つややかで美しい**あなたを気に入らなく思うならば

028 あきらむ（明らむ） マ行下二段

- ① 明らかにする・はっきりさせる

こもとの浅きことは、何事なりとも**あきらめ**申すさん
身近なつまらないことは何事であっても**はっきりと説明し**申し上げよう

029 ねんず（念ず） サ行変格

- ① 我慢する
② 祈る

ただ一人、ねぶたきを**ねんじて**さぶらふに
ただ自分一人が、眠たいのを**がまんして**お仕えしていると

030 まうく（敷く） 力行下二段

- ① 準備する・用意する

まさに財宝を**まうく**べし
さしあたって財宝を**用意**しなさい

Unit3 古文単語 315 をパーフェクトに！ 031-045 kobato

031 ある A 居る B 率いる ワ行上一段

A① 座る ②じっとしている・留まる ③(～し)ている …しつづける
B④ 連れていく・伴う

人の娘を盗みて、武蔵野へ**ゐ**てゆくほどに
人の娘を盗んで、武蔵野へ**連れて**行く途中に

032 具す サ行変格

①伴う・連れれる・添える

士どもあまた**く**して山へのぼりけるよりなむ
兵士たちを大勢**連れて**山へ上って以来

033 経(ふ) ハ行下二段

①たつ(経過する)
②通る(経由する)

黒崎の松原を**へ**てゆく
黒崎の松原を**通**って行く

034 さる A 避る B 去る ラ行四段

A① 避ける・避ける
B② (時期が)くる・(そのときに)なる
③ 立ち去る・過ぎ去る・移る

さらぬ別れに御心動かしたまふな
さけられない別れに動揺なさいませんように

035 ものす(物す) サ行変格

①(ものごとを)する
②いらっしゃる

日ごろここに**もの**したまふとも見ぬ人々の
いつもはこの館に**いらっしゃる**とも思えない人々が

036 ならふ ハ行四段

①慣れる・習慣となる
②親しくなる・なじむ

都の外の歩きは、まだ**なら**ひたまはねば、めづらしくをかしく思さる
都の外へのお出歩きは、まだ**慣**れおられないので、めづらしく趣深くお感じになる

037 しのぶ A 忍ぶ B 憶ふ バ行上二段・四段

A ①がまんする・気持をこらえる
②人目につかないようにする
B ③ 思い出す・恋い慕う

思ふには**しのぶ**ることぞまけにける
思う気持ちに、逢うまいと**こら**えていた気持ちが負けてしまいました

038 わぶ (俺ぶ) バ行上二段

- ①困る・嘆く・つらく思う・思い悩む
- ②～しかねる・容易に～できない

つれづれ**わぶる**人は、いかなる心ならん
所在のない状態を**やりきれないと思う**人は、いったいどんな気持ちなのであろう

039 をかし シク活用

- ①すばらしい・興味深い
- ②おかしい・こっけいだ

をかしきことにもあるかな。もつともえ知らざりけり
興味深いことだなあ。少しも知ることができなかった

040 よろし シク活用

- ①悪くはない・すばらしい
- ②普通だ・たいしたことはない

桜を**よろし**う思ふ人やはある
桜を**たいしたことはない**と思う人があるだろうか

041 ありがたし ク活用

- ①めったにない・まれである・珍しい
- ②すばらしい

御かたち・心ばへ、**ありがたく**めずらしき までめづらしきまで
御容貌・氣だてが、**めったにないほどすばらしく**珍しいまでに

042 つきつきし シク活用

- ①似つかわしい・ふさわしい

炭もてわたるも、いと**つきつきし**
炭火を持って歩くのも、たいへん**似つかわしい**

043 なまめかし シク活用

- ①上品だ・優美である
- ②若々しい・みずみずしい

御そばめ、**なまめかし**
御横顔は、**優美だ**

044 めでたし ク活用

- ①すばらしい・立派だ・すぐれている

世に似**ずめでたき**ことを、帝聞こしめして
世間に類がないほど**すぐれている**ことを、帝がお聞きあそばされて

045 うるはし シク活用

- ①きちんとしている・整っている・端正である
- ②美しい・見事だ

その日の髪あげ**うるはしき**姿
その日の（内侍の）髪を結い上げた**端麗な**姿

046 やむごとなし ク活用

- ①高貴だ・尊い
- ②格別だ・並々でない・優れている・この上ない

いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり
それほど高貴な家柄のご出身ではない方で、とりわけ帝のご寵愛を受けていらっしゃる方があった

047 おとなし シク活用

- ①大人らしい・大人びている
- ②思慮分別がある・落ち着いている
- ③穏やかだ・素直だ

おとなしく静やかなるけはひにて
思慮分別に重むもの静かな感じて

048 ゆかし シク活用

- ①見たい・聞きたい・知りたい・心ひかれる
- ②恋しい・なつかしい・慕わしい

何事かありけん、ゆかしかりしかど
何事があったのか、知りたかったけれども

049 なつかし シク活用

- ①親しみ深い・心ひかれる

御心ばへいとなつかしう、おいらかにおはしまして
お気だてがとても親しみ深く、おっとりとしていらして

050 はづかし(恥ずかし) シク活用

- ①恥ずかしい・きまりが悪い・気がひける
- ②立派だ・すぐれている

みな、いとはづかしき中に
みな、たいそう立派な人たちであるが

051 こころにくし ク活用

- ①奥ゆかしい・上品だ・心ひかれる

あてやかにこころにくき人にはあらじ
上品で奥ゆかしい人ではないでしょう

052 うつくし シク活用

- ①かわいい・いとしい
- ②美しい

父母を見れば尊し妻子見ればめぐしうつくし
父母を見ると尊いし、妻子を見るといとしくかわいい

053 かなし シク活用

- ①いとしい・かわいい
- ②悲しい・あわれだ・残念だ

わが**かなし**と思ふむすめを任うまつらせばや
自分が**かわいい**と思ふむすめを（源氏に）お任せさせたい

054 らうたし ク活用

- ①かわいい・いじらしい

らうたく、いたづらになりぬとききつるを
かわいそうに、世捨人のようになったと聞いたが

055 めやすし（目安し） ク活用

- ①（見た目の）感じがよい・見苦しくない

のどやかにてものしたまふけはひ、いと**めやすし**
静かにしていらっしゃる風情は、大変**感じがよい**

056 あやし A 怪し B 賤し シク活用

- A ①不思議だ・神秘的だ
- B ②身分が低い・卑しい
- ③粗末だ・みすぼらしい

あやしき板敷きにしばし立ちたまへるを
粗末な板張りの床の上にしばらくお立ちになっていると

057 くちをし（口惜し） シク活用

- ①残念だ・いやだ・なまげない

いと**くちをし**く思ひ嘆かるるに
たいへん**残念**に思い、嘆かれていたところ

058 あたらし（惜し） シク活用

- ①惜しい・もったいない・つまらない

惜しう**あたら**しかりし人の御ありさまぞや
哀惜せずにはいられない、捨ておかれているのが**惜し**かった、あの方のお人柄であるよ

059 むつかし シク活用

- ①不快だ・わずらわしい・うっとうしい
- ②君が悪い・恐ろしい

女君は、暑く**むつか**しとて
女君は、暑く**うっとう**しいといって

060 つれなし ク活用

- ①平然としている・平気だ・素知らぬ顔をしている
- ②冷淡だ・薄情だ・無関心である

左の中将お、いと**つれなし**く、知らず顔にてあたまへりしを
左近衛府の中将が、まったく**平然**として、知らないふりをして座っていらっしゃったので

061 なめし ク活用

- ① 無礼だ・無作法だ

言葉なめき人こそ、いと憎けれ
手紙のことばづかいの無礼な人は、とても感じの悪いものだ

062 おどろおどろし シク活用

- ① 大げさだ・仰々しい
② 気味が悪い・恐ろしい

夜の声は**おどろおどろし**。あなかま。
夜中の声は**気味が悪い**。静かにしなさい。

063 憂し ク活用

- ① つらい・いやだ・憂鬱だ・憎い

身の**うき**も人のつらきも知りぬるを
自分の気持が**つらい**のも、相手が薄情であると知っているのに

064 びんなし(便なし) ク活用

- ① 不都合だ・具合が悪い
② 気の毒だ・かわいそうだ

後見といふ名いと**びんなし**とて
後見という名前はとても**具合が悪い**といって

065 いとほし シク活用

- ① 気の毒だ・かわいそうだ
② いとしい・かわいい・いじらしい

ただ、木の端などのやうに思ひたるこそ、いと**いとほし**けれ
ほんの木のかずなどのやうに(非情のもの)思っているのは、たいへん**かわいそう**である

066 いはけなし ク活用

- ① 幼い・あどけない・子どもっぽい・幼稚である

いはけなき御ありさまなれば
子どもっぽいごようすのようであるから

067 さうざうし シク活用

- ① 物の足りない・さびしい・飽き足りない

まめやかに**さうざうし**と思ひきこゆる人もあり
心の底から**物足りない**と思ひ申しあげる人もいる

068 すさまじ シク活用

- ① 興ざめだ・おもしろくない・魅力がない
② 殺風景だ・寒々としている・荒涼としている

梨の花、よに**すさまじき**ものにして、ちかうもてなさず
梨の花は、実に**興ざめな**ものであって、身近に鑑賞せず

069 つらし ク活用

- ①薄情だ・冷淡だ・思いやりのない
- ②つらい・耐えがたい

見捨てて行きあかれにけりと、**つらく**や思はむ
見捨てて別れていってしまったと、**薄情だ**と思うだろうか

070 ところせし(所狭し) ク活用

- ①窮屈だ・仰々しい
- ②氣詰まりだ

世にぬけ出でぬる人の御あたりは、**ところせき**こと多くなむ
世間に群をぬいて高い身分の方のまわりには、**窮屈な**ことが多いものです

071 うしろめたし ク活用

- ①気がかりだ・不安だ・心もとない

いとはかなうものし給ふこそ、あはれに**うしろめたけれ**
大変頼りなくしていらっしゃるのは、しみじみと**気がかりだ**

072 わりなし ク活用

- ①道理に合わない・ひどい・無理やりだ
- ②しかたがない・どうしようもない・耐えがたい
- ③苦しい・つらい・困っている

わりなき心地の慰めに、猫を招き寄せてかき抱きたれば
どうしようもなくつらい気持ちの慰めに、猫を招き寄せて抱いたところ

073 本意なし ク活用

- ①不本意だ・残念だ・がっかりだ・物足りない

過ぎ別れぬること、かへすがへす**ほいなく**こそおぼえはべれ
お別れしていってしまうことは、まったく**残念に**思われます

074 あさまし シク活用

- ①驚くほどだ・意外だ
- ②あきれほどだ・がっかりだ
- ③情けない・嘆かわしい

聞く人**あさまし**き事なりとぞ言ひあつかひける
聞く人は**意外な**ことだと口ぐちに言い合った

075 めざまし シク活用

- ①氣にくわない・目障りだ
- ②すばらしい・立派だ・目が覚めるほどすばらしい

あはれもすこしさむる心地して**めざまし**
しみじみとした趣も少しさめる気持ちがして**氣にくわない**

076 いみじ シク活用

- ①とてもよい・素晴らしい・立派だ
- ②とても悪い・ひどい・恐ろしい
- ③とても・甚だしく

さるところへまからむずるも、**いみじく**はべらず
そのような所へ行きますのも、**うれしく**ございません

077 ゆゆし シク活用

- ①不吉だ・縁起が悪い・君が悪い・恐ろしい
- ②とてもよい・すばらしい
- ③とても・甚だしく

月のもり来て、ちこの顔にあたりたるが、いと**ゆゆしく**おほゆれば
月の光がもれてきて、幼児の顔にあたっているのが、たいへん**不吉**に思われたので

078 やさし シク活用

- ①恥ずかしい・きまり悪い
- ②優美だ・上品だ・風流だ
- ③けなげだ・殊勝だ・悪心だ

月をめで花をながめしいにしへの**やさし**人はここにありはら
月を賞美し、花を眺め味わった、遠い昔の**優雅**な人は、ここに鎮まっておいでの在原業平である

079 しるし ク活用

- ①はっきりとわかる・顕著だ
- ②～のとおりに・予想通りだ

ものおぼし乱るるさまの**しるし**ければ
何か思い悩まれるようすが**はっきりしている**ので

080 とし(疾し) ク活用

- ①早い・速い

おそらくは、**とく**も心得けむかし
きっと、**すぐ**に理解したにちがいない

081 ゆくりなし ク活用

- ①突然だ・思いがけない

ゆくりなく風吹きて、潜げども潜げども
思いがけなく風が吹いて、潜いでも潜いでも

082 おぼつかなし ク活用

- ①はっきりしない・ぼんやりしている
- ②気がかりだ・不安だ・疑わしい
- ③待ち遠しい・じれったい

明けぐれの空に、雪の光見えて **おぼつかなし**
夜明けのうす暗い空に、雪明かりが白く見えて、**ぼんやり**している

083 心もとなし 夕活用

- ①はっきりしない・かすかだ
- ②気がかりだ・不安だ
- ③待ち遠しい・じれったい

心ちのあしく、ものの恐ろしき折、夜の明くるほど、いと**心もとなし**
気分が悪かったり、心配事のあるときは、夜明けがくるのが本当に**待ち遠しい**

084 あはれなり

- ①しみじみと心に深く感じられる

あはれなるもの。幸なる人の子
しみじみとするもの。親孝行の子供

085 つれづれなり（徒然なり）

- ①退屈である
- ②ものさびしい

つれづれなるままに、日ぐらし硯にむかひて
退屈で所在ないのにまかせて、一日中筆をとって

086 すずろなり・そぞろなり（漫ろなり）

- ①なんということもない
- ②思いがけない
- ③むやみやたらだ

もの心細く、**すずろなる**めを見ることと思ふに、修行者あひたり
なんとなく頼りなく不安で、**ひどい**目にあうことだと思っていると、修行者が来合わせた

087 まめなり・まめやかなり

- ①まじめである・誠実である
- ②実用的である・実際のなさま

はかなきことにも**まめなる**かたにも、思ひやり多かる御心ばへを
風流な遊びごとにも**実用的な**方面のことでも、よく行き届いたお人柄を

088 あだなり（徒なり）

- ①はかない・頼りにならない・もろい
- ②誠実さがなく・浮ついている・浮気だ

露をなど**あだなる**ものと思ひけむ
露をどうして**はかない**ものと思ったのだろ

089 いたづらなり（徒らなり）

- ①役に立たない・むだだ・かいがなく
- ②むなしい・はかない

（水車は）つひに回らで、**いたづらに**立てりけり
（水車は）結局まわらないで、**無駄に**たっていた

090 優なり

- ①優れている・すばらしく立派だ
- ②上品で美しい・優雅である

桜の花は**いなる**に、枝ざしのこはごはしく
桜の花は**優美である**のに、枝ぶりがごつごつして

091 あてなり（貴なり）

- ①高貴である・身分が高い
- ②気品がある・上品である

いと**あて**にうつくしく、なかなか見えたまふ
非常に**上品**で美しくお見えなる

092 あからさまなり

- ①ほんのちょっと・一時的に
- ②ほんの・少しも・まったく

二三日は**あからさま**に出でたる人を待つ心地しておはしけるが
二、三日は**ちょっと**外出した人を待つような気持ちでいらっしゃったが

093 みそかなり（密かなり）

- ①ひそかに・こっそりと

人まに**みそかなり**に入りつつ
人の見ていないすきに**こっそり**と入っては

094 おろかなり（疎かなり）

- ①いい加減だ・疎略だ
- ②並ひととおりで
- ③～という言葉では言い表せない

わづか二つの矢、師の前にて、一つを**おろかに**せんと思はんや
たった二つの矢を、師の前で、一本を**疎略**にしようと思おうか

095 きこなり

- ①愚かだ・まぬけだ・ばかばかしい

冠落としたるをば、**きこなり**と思ひたまふ
冠を落としたのを、**おろかなこと**だと思ひなさるのか

096 むげなり（無下なり）

- ①ひどい・最低だ・最悪だ
- ②むやみに・ひどく
- ③身分が低い

むげのことも仰せらるるものかな
ひどいことをおっしゃるものだな

097 なかなかなり

- ①中途半端だ・不十分だ
- ②かえってしないほうがよい・なまじっか

髪のうつくしげにそがれたる末も**なかなか**長きよりも
髪の可愛らしい様子に削がれた先も**かえって**長いよりも

098 消息（せうそこ）

- ①手紙
- ②訪問の申し入れ・訪問のあいさつ

日ごろ経るまで**せうそこ**も遣はさず、あくがれまかり歩く
何日経っても**便り**もやらず、あちらこちらと浮かれ歩いているあいだに

099 手

- ①文字・筆跡
- ②演奏法・曲
- ③手段・方法・やり方
- ④傷・負傷

てなどつたなからず走りがき
文字などもじょうずにすらすらと書き

100 文

- ①手紙
- ②漢詩・漢文・漢字

京に、その人の御もとにとて、ふみかきてつく
京に（おられる）、あの方のお所にとて、手紙を書いてことづける

101 あそび（遊び）

- ①遊び
- ②管弦の遊び

よろづの遊びにも、勝ち負けを好む人は
すべての遊戯においても勝ち負けを好む人は

102 うへ（上）

- ①帝・天皇
- ②奥様
- ③～のこと

（人の尊を）聞けばわが上なりけり
よく聞くと自分のことであつたよ

103 あほやけ（公）

- ①朝廷・政府
- ②帝
- ③公的なこと

おほやけの宮仕へれば、常にはえまうです
朝廷へのご奉公をしていたので、いつもは参上できなかった

104 うち（内裏・内）

- ①内部
- ②宮中・内裏
- ③帝・天皇

うちより御いましめあり
天皇からおとがめがある

105 御前

- ①御前・お側
- ②貴人への敬称

おまへに、とくきこしめせ
あなた様も早く召し上がれ

106 みゆき (行幸・御幸)

① (帝や天皇の) お出かけ・お出まし

法皇夜をこめて大原の奥へぞ御幸なる
法皇はまだ夜も深いうちに大原の奥へお出ましになる

107 たより (頼り・便り)

①生活のよりどころ・頼みにできるもの
②つて・縁故・手づる
③よい機会・都合のよい折・ついで

都へたよりもとめて文やる
都に残してきた家人へつてを探して手紙をおくる

108 物語

①世間話・雑談
②物語

法師ばらの二三人ものがたりしつつ、わざとの声立てぬ念仏ぞする
僧侶たちが二、三人世間話をしながら、ことさらに声を出さない念仏をしている

109 ためし (例)

①前例・先例

さてもまた、集をえらぶ人はためし多かれど
それにしても、和歌の書を選び編む人は例が多いけれど

110 いそぎ (急ぎ)

①急なこと・急用
②支度・準備

御八講のいそぎを、さまざまに心づかひせさせ給へり
八講会の準備に、いろいろ心遣いをなされた

111 用意

①気配り・心遣い・配慮
②容貌・顔立ち

歌をばさるものにて、声づかひ、用意入るべし
歌はもちろんのこと、声の出し方にも配慮が必要である

112 かたち (形・容貌)

①形・外見・外形
②容貌・顔立ち

夕顔は、花のかたちも朝顔に似て
夕顔は、花の形も朝顔に似ていて

113 かげ A 影 B 陰

A ①形・外見 ②姿
B ③陰・物陰

ふと人の影見えければ
不意に人の姿が見えたので

114 けしき (気色)

- ①様子・ありさま
- ②顔色・機嫌・態度・そぶり
- ③意向・意中・内意・内実

預りいみじく経営し歩く**けしき**に
留守居役がたいそう忙しく世話をして立ち回っている**ようす**で

115 ころざし (心ざし・志)

- ①意志・意向・心が向かうところ
- ②愛情・好意・誠意
- ③お礼の贈り物・謝礼

三年ぐらいは**ころざし**あるさまに通ひたまひしを
三年ぐらいは**愛情**深い**ようす**で通われましたが

116 本意

- ①本来の意志・かねてからの願い

山籠りの**本意**深く、今年はいでじ、と思ひけれど
山寺での仏道修行の**意志**が深く、今年はおまいと思っていたけれど

117 こと (言)

- ①言葉・言語
- ②和歌

親の**こと**なりければ、いとねむごろにいたはりけり
親が**言うこと**であったから、たいそう心をこめてもてなした

118 わざ (業)

- ①こと (事)・行い
- ②葬儀・法事

けしからぬ**わざ**しける人かな
なんてひどい**こと**をした人でしょう

119 よろづ (万)

- ①多くの数・さまざま・万事
- ②何ごとにつけても・すべてにわたって

やまと歌は人の心を種として、**よろづ**の言の葉とぞなれりける
和歌というものは、人間のうちなる心の動きを源泉として**さまざま**の言葉となつてできあがっているものである

120 ことわり (理)

- ①道理・筋道

末代の僧の知恵・験をいどむは**ことわり**なりかし
後世の僧が知恵と法力を競うのは**当然**であるよ

121 ひがごと・ひがごと (辦事)

①間違い・誤り

いかでなほすこし**ひがごと**見つけてをやまむ
何とかしてやはり、少しでも**間違ったところ**を見つけて、やめにしよう

122 そらごと (空言・虚言)

①嘘・偽り・作りごと

多くはみな**虚言**なり
ほとんどはみんな**作りごと**である

123 しるし (験・徴)

①効き目・効果
②靈験・ご利益
③前兆・きざし

なべてならぬ法ども行はるれど、さらにその**しるし**なし
並々でない加持祈禱が行われたが、いっこうにその**ききめ**がない

124 料 (れう)

①ため・(何かの) ためのもの

燕の持たる子安貝を取らむ**料**なり
燕の持っている子安貝をおろうとする**ため**です

125 祿 (ろく)

①ほうび

祿どもは、中宮の御方よりたまはず
引出物の品々は、中宮の御方からくだされる

126 としごろ (年 頃・年比・年来)

①数年・数年来・長年

としごろ、常のあつしきになりたまへれば
これまでの何年かの間、いつもご病気がちでいらっしやっただので

127 つとめて

①早朝・朝
②翌朝

冬は、**つとめて**。雪の振りたるは、いふべきにもあらず
冬は、**早朝**。雪が降ったのは言い表しようがない

128 世・世の中

①世の中・世間
②人間関係・男女の仲・夫婦の仲
③一生・御代

この後もこの金を取りて、**世の中**を過べし
今後もこの金をとって**生活**していこう

129 いかで・いかでか

- ① どうして・どのように～だろうか
- ② どうして～だろうか、いや、～ない
- ③ なんとかして

いかで見ばやと思ひつつ
どうにかして見たいものだといつも思い続けて

130 いかが・いかに

- ① どのように・どうして～だろうか
- ② どうして～だろうか、いや～ない
- ③ どんなにか・どれほど・なんとまあ～だろう

梅の、みな散りたるを枝を、「これは、**いかが**」といひたるに
梅の花が、みな散ってしまった枝を、「**これはどのようにご覧になりますか**」と言ってきたので

131 など・などか・などで

- ① なぜ・どうして～か

など、かくたのもしげなく申すぞ
どうして、このような頼りないことを申すのか

132 いつしか

- ① いつの間にか・早くも
- ② (できるだけ) 早く

初時雨、**いつしか**とけしきだつに
初時雨が降り、**いつのまにか**、晩秋らしくものさびしいころ

133 おのづから

- ① 自然と・ひとりで
- ② 偶然・たまたま
- ③ 万一・もしかして

おのづから 礎ばかり残るもあれど、さだかに知れる人もなし
たまたま 土台の意志だけが残っているのもあるけれども、はっきりと知っている人もない

134 なほ

- ① 依然としてやはり
- ② なんといてもやはり・それでもやはり
- ③ さらに・いっそう・ますます

風波やまねば、**なほ**同じ所にあり
風や波がおさまらないので、**依然として**同じ所にいる

135 いとど

- ① いっそう・ますます
- ② そのうえさらに・ただでさえ・そうでなくとも

暑きほどは、**いとど**起きも上がりたまはず
暑いうちは、**いっそう**起き上がりもなさらぬ

136 げに（實に）

①本当に・なるほど

物語など見せ給ふに、**げに**おのづから慰み行く
物語などを見せてくださるので、**本當に**自然と気持ちが慰められてゆく

137 かく

①こう・このように

かくおびたしくふることは
このように激しく揺れることは

138 さ

①そう・そのように

必ず**さ**おぼす故はべらむかし
きっと**そのように**思いになるわけがあるのでしょう

139 しか

①そう・そのように

しか見たてまつりたまひて
そのようにご推察申し上げなさって

140 と

①そのように・あのよう

かねて**と**言はむかく言はむとまうけしことばをも忘れ
前もって**あのよう**に言おうこのように言おうと準備していたことばをも忘れ

141 やがて

①そのまま・引き続いて
②すぐに・すぐさま・ただちに

その日**やがて**將軍の宣旨くされ、少将になりたまふ
その日、**そのまま**將軍とする旨の勅命がくされ、少将になられた

142 すなはち

①すぐに・ただちに・即刻
②つまり・言い換えれば

秋は**すなわち**寒くなり
秋は**すぐに**そのまま寒くなり

143 やうやう

①しだいに・だんだんと
②やっと・かろうじて

やうやう白くなりゆく山ぎは
しだいにあたりが白んでいく、その山際

144 やをら・やはら

- ①そっと・静かに・おもむろに

火桶に**やをら**立つる箸の音
火桶に**そっと**立てる火箸の音

145 なかなか(に)

- ①なまじ・なまじっか
②かえって・むしろ

なかなかなるもの思ひをぞしたまふ
なまじっかご寵愛を受けるばかりに氣苦労をなさる

146 さすがに

- ①そうはいてもやはり
②なんといってもやはり

さすがに、常は見えたてまつる
そうはいてもやはり、いつもお遠い申し上げる

147 かたみに(互に)

- ①お互いに・かわるがわる

同じ所に住む人の、**かたみに**恥ぢかはし
同じ所に住む人で、**お互いに**相手を意識して遠慮しあい

148 うたて

- ①不快に・いやな感じに
②気味悪く・異様に妖しく
③情けない・いやだ

うたてぞなりぬべき人の御さまなりける
いやになってしまうようなご様子だったのである

149 なべて

- ①一般に・すべて・みな同様に
②並一通り・普通・平凡

なべて世にあらじとて
總じて世の中にあるまいというわけで

150 わざと

- ①わざわざ
②特に・とりわけ・格別に
③正式な・本格的な

人のもとに**わざと**清げに書いて遣りつる文の
人のところへ**わざわざ**きれいに書いて送った手紙の

151 あまた (数多)

①たくさん・数多く

女御更衣あまたさぶらひたまひける中に
女御や更衣がたくさんお仕えしていらっしやったなかに

152 ころら・そこら

①たくさん・数多く
②たいそう・はなはだしく

ころら思ひしづめつつ過ぐし来るに
たいそう心をおさえながら過ごしてきましたのに

153 え

①～することができない

え見はてじ
読み通すことはできないだろう

154 な～そ

①～するな・～しないでくれ・～してはならない

「一つなおとしそ」といえば
「一つでも書き漏らすな」というので

155 おほかた (~打消) (大方)

①まったく・少しも・決して (~ない)
②だいたい・概して (*打消を伴わない)

おほかたは、知りたりとも
たいていの場合は、よく知っているとしても

156 さらに (~打消) (更に)

①まったく・少しも・決して (~ない)
②実に (*打消を伴わない)

暇さらにゆるさせたまはず
まったくおいとまをお許しにならない

157 世に (~打消)

①まったく・少しも・決して (~ない)
②実に・非常に (*打消を伴わない)

よに逢坂の関は許さじ
まさか逢坂の関は決して通ることをゆるさないでしょう

158 絶えて (~打消) (絶えて)

①まったく・少しも・決して (~ない)

世の中に絶えて桜のなかりせば
この世の中にまったく桜がなかったならば

159 つゆ (～打消)

①まったく・少しも・決して (～ない)

つゆおとなふものなし
まったく音をたてるものはない

160 ゆめ・ゆめゆめ (～打消・禁止)

①まったく・少しも・決して (～ない)
②決して (～するな)

ゆめうれしからず
まったくうれしくない

161 つやつや (～打消)

①まったく・少しも・決して (～ない)

つやつや物も見えず
まったく何も見えない

162 きさきさ (～打消)

①ほとんど (～ない)

文も**きさきさ**しからず
手紙も**しっかり**書いていない

163 よも (～打消推量)

①まさか (～ないだろう)

大庭平太には**よも**しかじ
大庭平太には**まさか**及ぶまい

164 あなかしこ (禁止)

①決して (～するな)

あなかしこ、人に披露すな
決して他人には話すな

165 ためらふ 八行四段

①気持ちを静める・体を休める・病勢を落ち着かせる
②迷ってぐずぐずする・躊躇する・ためらう

心乱れて、久しうえ**ためら**ひたまはず
心が乱れて、長いこと**気を静める**ことがおできにならない

166 やすらふ(休らふ) 八行四段

- ①気持ちを静める・身体を休める・病勢を落ち着かせる
- ②迷ってぐずぐずする・躊躇する・ためらう

気色もなければ、しばし**やすらひ**て帰りぬ
様子もないので、しばらく**たたずん**でいて帰ってしまった

167 かたらふ(語らふ) 八行四段

- ①親しく語る・語り合う
- ②立ち止まる・一息いれる・休息する
- ③契る・夫婦の関係を結ぶ
- ④相談する・仲間に引き入れる・説得する

能あるあそび法師どもなど**かたらひ**て
芸能に秀でた遊芸の僧たちなどを**仲間**に引き入れて

168 住む マ行四段

- ①住む
- ②(女のもとに)通う・通ってともに暮らす

かぐや姫に**住み**たまふとな
かぐや姫のもとに夫として**通**っていらっしゃるようですね

169 やむ(止む) マ行四段

- ①そのままになる・終わる
- ②気がおさまる・なおる

上下ただ鬼の事のみいひ**やまず**
身分の高い人も低い人もただ鬼のことばかりうわさして**やま**ない

170 うつろふ(移ろふ) 八行四段

- ①移り行く
- ②変わってゆく・色あせる
- ③心変わりする

色見えて**うつろふ**ものは世の中の人の心の花にぞありける
色にも現われないでいて、**心が変わ**ってしまうものは、世の中の人の心という花であったことよ

171 見出だす サ行四段

- ①外を見る
- ②見つけ出す

外のかたを**見出して**臥せるに
外の方を**眺めて**横になっていると

172 もてなす サ行四段

- ①振る舞う
- ②処理する・待遇する・取り扱う・世話をする
- ③もてはやす・大切にすること・優遇する

ねぶたげにも**もてな**して
ねむそうな**ふり**を**な**さって

173 あつかふ 八行四段

- ①面倒を見る・世話をする・看病する
- ②もてあます

人々も、思ひの外なることかな、とあつかふめるを
人々も、意外なことだ、とうわさしているらしいのを

174 あくがる ラ行下二段

- ①さまよう・うわの空になる
- ②さまよい歩く・浮かれ出る

人の言にうちなびき、この山里をあくがれ給ふな
人の言葉につられて、この山里を離れなさるな

175 あふ A (合ふ・会ふ・逢ふ) 八行四段 B (欺ふ) 八行下二段

- A①結婚する・男女が契る
- B②たえられない・我慢できない
- ③～しきれない
- ④かまわないだろう・差し支えないだろう

つひに本意のごとくあひにけり
とうとうかねてからの望みどおりに結婚した

176 しほたる (潮垂る) ラ行下二段

- ①涙を流す・涙で袖が濡れる

昔のことかきつくし思し出でられて、しほたれさせたまふ
昔のことをことごとく思わずお思い出しになって、嘆き感しんでいらっしやる

177 かきくらす (掻き暗す) サ行四段

- ①空を暗くする・あたり一面を暗くする
- ②心を暗くする・悲しみにくれる

雪かきくらし降り つもる朝
雪があたりいちめんを暗くして降り積もる朝

178 まどふ (惑ふ) 八行四段

- ①迷う・悩む・途方にくれる・うろたえる・心が乱れる
- ②ひどく～する

音に聞きめでてまどふ
噂を聞いて感じ入りあれこれ思い悩む

179 たばかる (謀る) ラ行四段

- ①考えをめぐらす・工夫する
- ②だます・たくらむ

いかがはたばかるべきと
どのように工夫すればよいかと

180 すさぶ (荒ぶ・遣ぶ・遊ぶ) 八行四段・上二段

- ①興じる・楽しむ・気の向くまま
- ②(なにかを)する・慰みに(なにかを)する

よろづにをかしうすさび散らしたまひけり
さまざまのことにおもしろく、気の向くままお遣き散らしになった

181 すまふ（争ふ・辞ふ） 八行四段

- ①抵抗する・争う・さからう
- ②辞退する・断る・いやがる

習はせたまふほども、あやにくがりすまひたまへど
お習いになる間も、だだをこねてさからいなさるが

182 まねぶ（学ぶ） 八行四段

- ①まねる
- ②伝える・書き記す・学習する

何ごとも広き心を知らぬほどは、文の才をまねぶにも
何事でも広い教養をもっていないうちは、漢学を学ぶにも

183 ねぶ 八行上二段

- ①年をとる・成長する・ふける
- ②大人びる・ませる

ねびゆかむさま、ゆかしき人かなと、目とまり給ふ
成長してゆく様子が、見たい人だなあと、注目なされた

184 おきつ（掟つ） 八行下二段

- ①指図する・命令する
- ②計画する・決めておく・処理する
- ③取り扱う・取り計らう

思ひたまへおきてはべる
思い決めているのです

185 うれふ（慍ふ） 八行下二段

- ①訴える・不平を言う

誰にかはうれへ申しはべらむ
どなたに訴え申し上げます

186 むすぶ A（結ぶ） 八行四段 B（掬ぶ） 八行四段

- A①作る・できる
- ②契る・約束する・安否を問う
- B③（水などを）すくう

長き恨みをむすぶ類多し
長い恨みを生ずる例が多い

187 とぶらふ A（訪ふ） 八行四段 B（弔ふ） 八行四段

- A①訪ねる・尋ねる・探し求める
- ②見舞う
- B③弔う・供養する

秋の野に人まつ虫の声すなり我かと行きていざとぶらはむ
・・・「私を待っているのだらう」と言って尋ねていくことにしよう

188 やつす サ行四段

- ①目立たない服装にする・質素にする・みすぼらしくする
- ②出家する

心もなく、たちまちにかたちをやつしてけること、と胸つぶれて
思慮分別もなく、すぐに姿を態に変えてしまったことよと、胸がつぶれる思いで

189 さはる（降る）ラ行四段

- ①差し降る・差し支える・妨げられる

なでふ事にさはりて
なにほどのこともないことに妨げられて

190 かしこまる（畏まる）ラ行四段

- ①恐縮する・恐縮して正座する・お礼を申し上げる・謹慎する

やむごとなき人の、よろづの人にかしこまれ
身分の高い人が、さまざまな人におそれうやまわれ

191 かこつ（託つ）タ行四段

- ①嘆く・不平を言う

逢はでやみにし憂さを思ひ、あだなる契りをかこち
将来の約束をしないで終わってしまったつらさを思い、なんのかいもない約束を恨み嘆き

192 わく（分く）カ行四段

- ①分ける・区別する
- ②理解する・識別する

いづれを梅とわきて折らまし
どれを梅の花 区別して折ればよいやら

193 つつむ（慎む）マ行四段

- ①遠慮する・はばかる

おのおの親ありければ、つつみて言ひさしてやみにけり
それぞれ親があったので、遠慮して恋の語らいを途中でやめにしてしまった

194 あらまほし シク活用

- ①理想的だ・望ましい

烏帽子・直衣の姿、いとあらまほしく清げにて
烏帽子・直衣の姿が、大変理想的できれいで

195 らうらうじ（勞勞じ）シク活用

- ①巧みだ・もの慣れている・気がきいている・配慮が行き届いている
- ②上品だ・うつくしい

なほ、らうらうじく、若う、懐かしくて
やはり上品で、若々しくて慕わしく

196 うるせし ク活用

- ①賢い・優れている
- ②巧みだ・優れている

うるせき女ありけり
気のきいた女がいた

197 はかばかし シク活用

- ①しっかりしている・きちんとしている
- ②はっきりしている

空のけしき、はかばかしくも見えず
空のようすがはっきりとは見えずに

198 をさをさし（長長し）シク活用

- ①しっかりしている
- ②大人びている

若ければ、文もをさをさしからず、ことばもいひしらず
若かったので、手紙もしっかり書けていないし、ことばもどういったらよいかわからない

199 さうなし（双無し）ク活用

- ①比べるものがない・すばらしい

さうなき武者なり
並ぶものがないほどの武士であった

200 くまなし（隠無し）ク活用

- ①暗いところがない・影がない
- ②何でも知っている・行きとどいている

月はくまなきを見るものかは
月は曇りがないものだけを鑑賞するものではない

201 ずちなし（術無し）ク活用

- ①どうしようもない・手のうちようがない・困り果てる

今日はずちなし。右の大臣に任せまうす
今日はどうしようもない。右大臣にお任せ申し上げる

202 さがなし ク活用

- ①意地が悪い・口やかましい
- ②いたずらだ

さがなき子どもの仕りける
いたずらな子どもたちがしでかしたことで

203 あいなし ク活用

- ①気に入らない・つまらない・不都合である
- ②なんとなく・わけもなく・むやみに

世に語り伝ふること、まことはあいなきにや
世間で語り伝えていることは、本当のことはおもしろくないのであろうか

204 まさなし ク活用

- ①よくない・見苦しい・常識はずれである
- ②予想外だ・思いもかけない・びっくりだ

いとかう**まさなき**まで
たいそうこのように**悪いもかけない**まで

205 はかなし ク活用

- ①頼りない・むなし・はかない
- ②ちょっとしたことだ・取るに足りない・たわいない

はかなきは思はぬ人を思ふなりけり
はかなく頼りないのは、自分を思ってくれない人を恋い慕うことであつたよ

206 こころづきなし ク活用

- ①気に入らない・好感がもてない・心ひかれぬ

いと**こころづきなく**、にくかりなん
ひどく**いやになり**、憎くなるだろう

207 あへなし（欺へ無し）ク活用

- ①期待はずれだ・落胆している・張り合いがない
- ②はかない・どうしようもない

いと、**あへなく**て帰参りぬ
たいそう、**がっかり**して帰参した

208 おぼけなし ク活用

- ①身のほど知らずだ・分不相応だ・おそれ多い

わが心の**おぼけなき**にこそありけれ
私の望みは**分不相応**だったのだ

209 よしなし（由無し）ク活用

- ①理由がない
- ②方法がない
- ③つまらない・意味がない
- ④関係がない・縁がない

よしなく覚ゆるままに物をいひて、心すべかりける事を
つまらないと思つたのでそのまま言つたが、気を付けるべきだったなあと

210 はしたなし ク活用

- ①中途半端だ・どっちつかずだ
- ②みっともない・きまり悪い
- ③そっけない・愛想がない
- ④はなはだしい・激しい

たびたび行きけれども、いと**はしたなく**もてなして
何度も行ったけれども、大変**つれなく**対応して

211 しどけなし ク活用

- ①だらしない・乱れている・怠慢だ
- ②無造作だ・くつろいでいる・気楽だ・ゆったりしている

直衣ばかりをしどけなく着なしたまひて
直衣だけを無造作にはおりなさせて

212 いぎたなし ク活用

- ①寝坊だ・ぐっすり寝込んでいる

いぎたなくて出でたまふべき気色もなきよ
ぐっすり寝ていてお出になるそぶりもないことよ

213 ひとわろし (人悪し) ク活用

- ①みっともない・体裁が悪い

さまざまにひとわろき事どもを怒へあへるを
あれこれと外見の悪いことなどを心配しあっているのを

214 いぶせし ク活用

- ①うっとうしい・気が晴れない・不快だ
- ②気がかりだ・気になる

ただひとり山辺に居ればいぶせかりけり
たったひとり山辺にいと心が晴れないことだなあ

215 かたはらいたし ク活用

- ①苦々しい・腹立たしい・見苦しい・聞き苦しい・みっともない
- ②気の毒だ・心苦しい
- ③きまり悪い・恥ずかしい

人のほめなどしたる由いふも、かたはらいたし
人がほめるなどしたことをいうのも、聞いていて苦々しい

216 こちたし ク活用

- ①うるさい・煩わしい
- ②大げさだ・仰々しい
- ③非常に多い・はなはだしい・おびただしい

こちたく追ひののしる御前駆の声に「源氏物語」
仰々しく大声で追い立てる御前駆の声に

217 かしこし (賢し・畏し) ク活用

- ①おそれ多い・もったいない・尊い
- ②賢い・優れている・立派だ・ありがたい
- ③都合がよい・運がよい・うまい
- ④はなはだしく

かしこき仰せ言をたびたびうけたまはりながら
恐れ多いおことばをたびたびお受けしながら

218 けし (怪し・異し) シク活用

- ①異様だ・変だ・よくない
- ②不誠実だ・とがめるべきだ

けしう、心置くべきこともおぼえぬを
変だなあ、隔て心をもつようなことも思いあたらないのに

219 わびし (侘びし) シク活用

- ①つらい・苦しい・やりきれない・困ったことだ
- ②わびしい・心細い・貧しい

いと心もとなく、わびし
たいそう待ち遠しくてやりきれない気持ちだ

220 こころぐるし (心苦し) シク活用

- ①気の毒だ・かわいそうだ・つらい
- ②気がかりだ・心配だ

大殿の、御心のうちにこころぐるしと思ふことありて
大殿のお心の中に苦しとお思いになることがおありになるので

221 まだし (未し) シク活用

- ①まだ早い・まだその時期ではない・未熟だ

山の錦はまだしうはべりけり
山の錦にはまだ早うございました

222 さかし (賢し) シク活用

- ①賢い・優れている・巧みだ
- ②しっかりしている・気丈だ
- ③利口ぶっている・こざかしい

古への七のさかしき人どもも
その昔、七人のかしこい人たちも

223 まばゆし ク活用

- ①まぶしい
- ②美しい・立派だ・すばらしい
- ③きまりが悪い・恥ずかしい

車にさし入りたるもまばゆければ
車の中に差しこむのもまぶしいので

224 かたじけなし ク活用

- ①おそれ多い・申し訳ない
- ②おそれ多い・もったいない・ありがたい
- ③恥ずかしい・面目ない

かくかたじけなき御送りにとて黒駒奉りたまふ
こうしたありがたい訪問客を送りするためにと、黒馬をおさしあげなさる

225 ねたし (妬し) ク活用

- ①くやしい・しゃくだ・にくらしい
- ②妬ましいほど立派だ・すぐれている

かく辛き目にあひたらん人、ねたしく
このようにつらい思いをしたような人は、にくらしく

226 しげし (繁し・茂し) ク活用

- ① (何かが) 多い・たくさんある
- ② しきりに・絶え間ない・忙しい

公私の営みしげき身
公私とも仕事の多い私の身には

227 すごし (凄し) ク活用

- ① 気味が悪い・ぞっとするほど恐ろしい
- ② さびしい・殺風景だ
- ③ すばらしい・うつくしい

すごしき夜のさまなり
恐ろしい夜のありさまである

228 いたし ク活用

- ① とてもよい・すばらしい
- ② とても悪い・ひどい
- ③ とても・はなはだしく
- ④ それほど・あまり

霜いたくきらめきて
霜がおりてたいそうひどくきらきらと輝いて

229 おぼろけなり

- ① 並ひととおりだ・ありきたりだ
- ② 並ひととおりではない・格別だ

誰ならむ。おぼろけにはあらず
誰だろう。並ひととおりの人ではあるまい

230 なのめなり (斜めなり)

- ① 並ひととおりだ・普通だ・平凡だ
- ② 不十分だ・いい加減だ
- ③ 並ひととおりでない・格別だ

なのめなる際のさるべき人の使ひだに
普通の身分の、当然そうしなければならない人の使者でさえ

231 清らなり・けうらなり

- ① 清らかで美しい
- ② きちんとしている・整っていて美しい

世になくきよらなる玉の男皇子さへ生まれたまひぬ
世にまたとない清らかに美しい玉のように輝く皇子までもお生まれになった

232 まほなり

- ① 欠点がなくすぐれている・完全である
- ② まともであるさま

あさましう、まほに見なすものを
あきれるほど、欠点がなくすぐれていると見なすものであるが

233 あらはなり (顯なり)

- ①はっきり見える・まる見えである
- ②明らかである・露骨である

端の**あらはなり**
縁の端は**外から丸見え**ですよ

234 あながちなり (強ちなり)

- ①強引だ・無理やりだ・いちずだ
- ②むやみに・あまりに

思ひたちしことを**あながち**にもてはなれたまひしこと
思いたったことを、**一方的に**遠ざけなされたことよ

235 せちなり (切なり)

- ①切実である・ひたすらだ
- ②大切である・さしせまっている

世の人は**せちに**言ひおとしきこゆるこそ、いとほしけれ
世間の人が**しきりに**悪くおうわさ申し上げるのがたいそうお気の毒である

236 とみなり (頓なり)

- ①急だ

とみのもの縫ふに
急ぎの着物を縫うとき

237 うちつけなり

- ①急だ・突然だ・にわかだ
- ②軽率だ・考えが浅い・場当たりだ

されば**うちつけ**に海は鏡の面のごとなりぬれば
すると、**突然**に海は鏡の表面のようになったので

238 さらなり (更なり)

- ①言うまでもない・もちろんだ

三度は**さらなる**事にて、七八など召して
三杯は**言うまでもない**事で、七八杯も召し上がり

239 ねんごろなり・ねむごろなり

- ①心をこめて丁寧だ・熱心だ
- ②親密だ・仲むつまじい

狩は**ねんごろ**にもせで、酒を飲みつつ
狩はそれほど**熱心**にもしないで、酒ばかり飲みながら

240 おいらかなり

- ①穏やかだ・おっとりしている
- ②率直である・素直である

ここにもかしこにも**おいらか**に言ひなして
こちらにもあちらにも**穏やかに**話をつけて

241 あやになり

- ①意地が悪い・にくらしいほどひどい
- ②都合が悪い・間が悪い・あいにくだ

さらに知らぬよしを申ししに、**あや**に強ひたまひしこと
まったく存じませんと申しましたのに、**意地悪く**無理に追求なさったことです

242 おぼえ(覚え)

- ①評判・人望・うわさ・評論
- ②寵愛・信任

世の**おぼえ**、時のきら、めでたかりき
世間の**評判**といい、当時の権勢の盛んなことといい、すばらしいものであった

243 ひま(隙・暇)

- ①間・すき間
- ②絶え間・合間
- ③時間的ゆとり・暇・自由な時間

ひまもなき涙にくもる心にも
絶え間なく流れる涙でくもり、暗い気持ちになっている私の心にも

244 いとま(暇)

- ①時間的ゆとり・暇・余裕
- ②休むこと・勤めをやめること・休暇
- ③別れること

いたづらに**いとま**ありげなる博士ども
することもなく、**ひま**がありそうな博士たちを

245 才

- ①教養・学才・学問
- ②技能・才能・美術

なほ**才**をもととしてこそ
やはり**学問**を基礎としてこそ

246 よろこび(喜び)

- ①喜び・お祝い
- ②お礼

こほろぎの待ち **よろこぶ**る秋の夜を
こほろぎが待ったかいたと**喜んで**鳴いている秋の夜だが

247 こころばへ(心ばへ)

- ①気立て・性質
- ②心遣い・気配り
- ③趣・風情・趣意

本地たづねたるこそ、**こころばへ**をかしけれ
物事の本源を追求している人こそ、**心づかい**が奥ゆかしいので

248 こころづくし(心尽くし)

- ①もの思いをすること
- ②気をもむこと・心労の多いこと

こころづくしの秋は来にけり
思いのかぎりを尽くさせる秋がやってきたのだなあ

249 そこ

- ①あなた(二人称)

そこは申されぬか
あなたは申請されないのか

250 ここ

- ①このわたし(一人称)
- ②あなた(二人称)

ここには、いかなる心をおきたてまつるべきにか
わたくしの方で、どうしてお疑い申し上げてよいものでしょうか

251 かれ

- ①あの人
- ②あれ・あのもの

かれが申さむこと、院に奉せよ
あの人申すこと、わたしに申し上げよ

252 それ

- ①その人
- ②あなた(二人称)

それはさは聞きたまはぬか
あなたはそうはお聞きになりませんか

253 これ

- ①この人
- ②このわたし(一人称)
- ③あなた(二人称)

齢などこれよりまさる人
年齢など私以上の人が

254 あなた

- ①あちら・こちら

川のあなたには
川の向こう側には

255 そなた

- ①そちら・その方面
- ②あなた・お前

そなたにも出でずなどあれば
そちらのほうに出でていかないでいと

256 こなた

- ①こちら・こっち
- ②このわたし（一人称）

こなたを師のように思ひ聞こえて
こちらの方を師匠のように思い申し上げて

257 そのかみ

- ①その当時・その昔・往時

そのかみ思ひはべりしやう
その当時、思いましたことは

258 せうと（兄人）

- ①兄・弟

かのせうとの童なる、率いておはず
あの弟の少年を、一緒に連れていらっしゃる

259 おとうと・おとと（弟）

- ①弟・妹

妻のおとうとを持ちて
妻の妹を待つて

260 いも（妹）

- ①いとしいあなた（妻・恋人）

紫のにほへるいもを憎あらば
紫草のようにつややかに美しいあなたを、憎く思うならば

261 つま（夫・妻）

- ①夫・妻

つまもこもれりわれもこもれり
夫も私もここに隠れているのですから

262 はらから（同胞）

- ①兄弟・姉妹

思はぬはらから親族の仲
薄情な兄弟や親族の間がら

263 かたへ（片方）

- ①片方・半分・一部分
- ②側・傍ら・そば・身近
- ③仲間・同僚・兄弟

腹ぎたなきかたへの教へおこするぞかし
意地悪な仲間が教えてやってこさせたのだな

264 ほど (程)

- ①間・うち・時・ころ
- ②距離・広さ・あたり
- ③身分・地位・年齢
- ④様子・ありさま

髪のかかる男の洗ひてほす**ほど**
髪が多い男が、洗って乾かしている**ありさま**

265 かぎり (限り)

- ①限度・限界・期限
- ②時期・機会・あいだ
- ③最後・臨床
- ④全部・すべて

筆のゆく**かぎり**ありて、心よりはことゆかずなむ
絵の技巧には**限度**があって、心で思うようにはうまくいかない

266 きは (際)

- ①端・限り・終わり・限界
- ②程度・身分

今、やうやうわずれゆく**きは**に
いま、だんだんとわずれてゆく**時分**になって

267 ついで (序)

- ①序列・順序
- ②機会・折・場合

ついでを違へて
順序を取り違へて

268 沙汰

- ①評議・裁き・処置
- ②命令・指図
- ③評判・うわさ

三井寺には、折ふし競が**さた**ありけり
三井寺では、ちょうどそのとき競の**うわさ**をしていた

269 とが (咎・利)

- ①欠点・短所
- ②過失・罪

もしなほその**とが**あるべくは、
もしそれでもそのことで**罪**があるならば

270 け (故)

- ①ゆえ・ため・せい

御手もわななく**け**にや
お手もふるえた**せい**でしょうか

271 よし (由)

- ① 趣・風情・いきさつ
- ② 由緒・由来・理由
- ③ 手段・方法・手立て
- ④ こと・旨

いとよしあるさまして
たいそう風情のある様子で

272 やう (様)

- ① 様子・ありさま・姿
- ② 理由・わけ・事情
- ③ 方法・手段・やり方
- ④ ～ことには

飾りとする定まれる様あるものを
装飾とする定まった様子があるのを

273 ちぎり (契り)

- ① 約束・契約
- ② 前世からの約束・因縁・宿縁

松のちぎりも来てこそは見め
松山の松のように絶対に変わることはない夫婦の約束も帰って来てごらんになるとよいでしょう

274 ほどし (絆)

- ① 束縛するもの・障害となるもの

かかるほどしだに添はざらましかば
このような障害さえ加わらなかつたら

275 あやめ (文目)

- ① (物の) 模様・形・区別
- ② (ものごとの) 道理・筋道・分別

常の色もかへぬあやめも、今日はめづらかに
ふだんの色と変わらない模様も、目の覚めるように見え

276 うつつ (魂)

- ① 現実
- ② 正気

いかに、夢かやうつつか、これへこれへ
なんと夢か現実か、こちらへこちらへ

277 あるじ A (主) B (従)

- A① 主人・主君
- B② 賛応・もてなし・接待

あるじのはらからなる
主人の兄弟であう人

278 ふるさと（古里・故郷）

- ①なじみの土地・生まれ故郷
- ②わが家・自宅
- ③旧都

なに**ふるさと**に袖ぬらすらむ
どうして**自分の生まれた土地**では袖をぬらして泣いているのだろう

279 さて（然て）

- ①そういう状態で・そのまま・そうして
- ②それ以外・そのほか

さてうち置きたるは
そのままで置いておくのは

280 さながら（然ながら）

- ①そのまま・もとのまま
- ②すべて・ことごとく・全部

衣着ぬ妻子なども、**さながら**内にありけり
衣服を身につけない妻子なども、**そのまま**家の中にあった

281 いま（今）

- ①まもなく・すぐに
- ②さらに・もう

いま一隨の位をだにと、贈らせたまふなりけり
せめてもう一段上の位をだけでもと、お贈りになるのだった

282 せめて

- ①無理に・強いて
- ②痛切に・切実に・ひどく

せめて見れば、花びらのはしにをかしき匂ひこそ
無理に探してみると、花びらの端に趣のある紅色が

283 むべ・うべ

- ①なるほど・いかにも

むべ、ときめくにこそありけれ
なるほど、ご寵愛を受けるのだな

284 かつ

- ①一方では
- ②すぐに・たちまち

かつ消え、**かつ**結びて
一方では消え、**一方では**またできたりして

285 ひねもす（終日）

- ①一日中・朝から晩まで

御堂の勤め、**ひねもす**よもすがら怠らせ給はず
御堂の仏前でのおつとめを、**一日中**（そしてさらに）一晩中怠りなさらぬ

286 かまへて (～打消・禁止)

- ①決して・絶対に(～ない・～するな)
- ②きっと・必ず・なんとかして

かまへて、調ずまじきなり
決して、からかってはいけないものである

287 あへて (～打消)

- ①まったく・少しも・決して(～ない)

あへて凶事なかりけるとなん
少しも不吉なことはなかったということだ

288 かけて (～打消)

- ①まったく・少しも・決して(～ない)

かけて思ひ寄らぬさまに
全然心当たりがないようすをして

289 さだめて (～推量)

- ①きっと・必ず(～だろう)

さだめて打手むけられ候はんずらん
きっと追手の兵を向けられるでしょう

290 のたまふ 八行四段

- ①おっしゃる

手をすりの**たまへど**
手をこすりあわせて**おっしゃる**が

291 仰す サ行下二段

- ①おっしゃる
- ②命令する・御命じになる・命令なさる

司々も**おほせて**
各役所に**お命じ**になって

292 聞こゆ ヤ行下二段

- ①申し上げる
- ②～申し上げる

世の人光る君と**聞こゆ**
世間の人光る君と**申し上げる**

293 申す サ行四段

- ①申し上げる
- ②～申し上げる・～してさしあげる

寂光院と**申す**所こそか開かにさぶらへ
寂光院と**申します**所は静かでございます

294 奏す サ行変格

- ① (帝に) 申し上げる
- ② 演奏する・奏でる

こまごまと**奏す**
事こまかに**申し上げる**

295 啓す サ行変格

- ① (中宮・東宮に) 申し上げる・言上する

ありつるやう**啓す**れば
さきほどのようすを**申し上げると**

296 承る ラ行四段

- ① お受けする・お聞きする
- ② 拝見する

かしこき仰せ言をたびたび**承り**ながら
恐れ多いおことばをたびたび**お受け**してしながら

297 給ふ A 八行四段 B 八行下二段

- A① お与えになる・下さる
- ② ~なさる
- B③ ~ております

使ひに禄多**給へり**けり
使いの者にごほうびを**お与え**になった

298 たまはず (給はず・賜はず) サ行下二段

- ① お与えになる・下さる

上局に**たまはず**
控えの部屋として**お与え**になる

299 たまはる (賜はる・給はる) ラ行四段

- ① いただく・頂戴する
- ② お与えになる・下さる

下ろしの御衣一つ**たまはらず**
お着物一枚**いただいております**

300 召す サ行四段

- ① お呼びになる (「呼ぶ」の尊敬語)
- ② お取り寄せになる (「取りよす」の尊敬語)
- ③ お召しになる (「着る」の尊敬語)
- ④ お乗りになる (「乗る」の尊敬語)
- ⑤ 召し上がる (「食ふ」「飲む」の尊敬語)

まづひざつきを**召さる**べくや候ふらん
まず、ひざつきを**お取り寄せ**になるべきでございましょうか

301 思す・思し召す サ行四段

- ①お呼びになる (「呼ぶ」の尊敬語)
- ②お取り寄せになる (「取りやす」の尊敬語)
- ③お召しになる (「着る」の尊敬語)
- ④お乗りになる (「乗る」の尊敬語)
- ⑤召し上がる (「食ふ」「飲む」の尊敬語)

人よりことに弾きまさらむと**おぼせ**
人よりといちだんとじょうずに弾こうと**お思い**なさない

302 おほとのごぼる (大段籠る) ラ行四段

- ①おやすみになる (「寝」「寝ぬ」の尊敬語)

命婦は、まだ**おほとのごぼら**せたまはざりけると
命婦は、まだ**おやすみになら**なかつたのかと

303 さぶらふ (候ふ)・さうらふ (候ふ) ハ行四段

- ①お仕え申し上げる (「仕ふ」の謙讓語)
- ②あります・います・おります (「あり」「をり」の丁寧語)
- ③～です・～でございます・～しています (丁寧の補助動詞)

稀有のことの**さぶらひ**しなり
不思議なことが**ございました**

304 はべり (侍り) ラ行変格

- ①お仕え申し上げる・伺候する (「仕ふ」の謙讓語)
- ②あります・います・おります
- ③～です・～ございます (丁寧の補助動詞)

よしあるものは**はべり**や
由緒ある物は**伺候**しているか

305 奉る ラ行四段

- ①差し上げる・献上する (「与ふ」の謙讓語)
- ②～申し上げる (謙讓語の補助動詞)
- ③お召しになる (「着る」の尊敬語)
- ④召し上がる・お飲みになる (「食ふ」「飲む」の尊敬語)
- ⑤お乗りになる (「乗る」の尊敬語)

梅の造り枝に雉をつけて**奉**るとて
作り物の梅の枝に雉をつけて**献上**するということ

306 参らす サ行下二段

- ①差し上げる・献上する (「与ふ」の尊敬語)
- ②～申し上げる・～を差し上げる (謙讓の補助動詞)

御果物ばかり**参**れり
お酒の肴だけを**差し上げた**

307 御覧す サ行変格

- ①ご覧になる (「見る」の尊敬語)

月の光を**ごらん**じてぞなくさませたまひける
月の光を**ご覧**になって、お心を慰めていらした

308 まかる ラ行四段

- ①退出する・赴く・下る (「出づ」「行く」の謙譲語)
- ②出かけます・参ります

玉の枝取りになむ**まかる**
玉の枝を取りに**出かけていく**

309 つかはす (遣はす) サ行四段

- ①おやりになる・派遣なさる (「遣る」の尊敬語)
- ②行かせる・やる

つかはしし御門の人も白たへの麻衣着て
お使いになっておられた宮殿の人々も白い麻の衣服を着て

310 つかまつる (仕まつる) ラ行四段

- ①お仕え申し上げる (「仕える」の謙譲語)
- ②し申し上げる・して差し上げる (「す」の謙譲語)

公けに**つかまつり**ける程に
朝廷に**お仕え申し上げ**ていた間に

311 聞こし召す サ行四段

- ①お聞きになる (「聞く」の尊敬語)
- ②召し上がる・お飲みになる (「食ふ」「飲む」の尊敬語)

いとあはれがらせたまひて、物も**聞こしめさ**ず
たいそうしみじみとしたお気持ちにおなりになって、なにも**召し上**がらない

312 しろしめす サ行四段

- ①知っていらっしゃる (「知る」の尊敬語)
- ②お治めになる (「知る」の尊敬語)

礼儀よく**しろしめし**
礼儀作法をよく**ご存じ**で

313 おはす サ行四段

- ①いらっしゃる・おありになる (「あり」「行く」「来」の尊敬語)
- ②～いらっしゃる (尊敬の補助動詞)

六年ばかりや**おはし**けむ
六年ほどこの世に**いらっしや**いましたでしょうか

314 いますかり サ行四段

- ①いらっしゃる・お出でになる (「あり」「行く」「来」の尊敬語)
- ②いらっしゃる (尊敬の補助動詞)

かうても**います**がりなむかし
こうしても**いらっしや**れましょうよ

315 まうづ (働づ) ダ行下二段

- ①参上する (「行く」「来」の謙譲語)
- ②差し上げる
- ③召し上がる (「食ふ」「飲む」の尊敬語)

しばしば**まうづ**としけれど
たびたびは**参上**することができない